

通 信

四学会合同大会のお知らせ

沖縄生物学会の第61回大会は、日本動物学会九州支部会（第76回）、九州沖縄植物学会（第73回）、日本生態学会九州地区会（第68回）との共同開催となります。会場は琉球大学です。一般講演、シンポジウム・特別講演、懇親会を予定しています。今大会は合同大会のため、参加申し込み、講演申し込み、講演要旨の書式等が例年と異なります。詳細につきましては別途ご案内を差し上げますので、多数の会員の皆さまのご参加をお待ちしております。

日程： 2025年5月25日（土）～26日（日）

5月25日（土）

12：00～	受付・ポスター掲示
13：00～14：00	合同ポスター発表・高校生以下ポスター発表（奇数番号発表）
14：00～15：00	合同ポスター発表・高校生以下ポスター発表（偶数番号発表）
15：10～15：40	日本生態学会九州支部総会
15：40～16：10	日本動物学会九州支部総会・九州沖縄植物学会総会
16：20～17：50	公開シンポジウム or 特別講演
18：10～20：00	懇親会

5月26日（日）

8：30～	受付
9：00～12：00	一般講演（口頭発表）
13：00～14：00	沖縄生物学会総会
14：00～16：00	一般講演（口頭発表）

* ポスター・口頭発表の演題数によっては、時間が変更になる可能性があります。

会場：琉球大学共通教育棟（〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地）

大会参加費：当日 一般 3,000円 学生 1,500円（申込期限後 一般 4,000円 学生 2,000円）

* 小・中・高校生は参加無料です。

◆ シンポジウム

公開シンポジウム・特別講演のテーマに関しましてご意見・ご提案を受け付けます。2024年1月末までに電子メール(okinawaseibutu60th@gmail.com)でご連絡ください。過去のシンポジウムについては学会ホームページ(<http://www.okibio.jp/active/index1.html>)に記載がありますので参照してください。シンポジウムのテーマは、最終的には4学会合同沖縄大会実行委員会で決定し、次回の通信でお知らせする予定です。

大会連絡先：

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地 琉球大学理学部海洋自然科学科

傳田哲郎（四学会合同沖縄大会実行委員） TEL: 098-895-8545

国立自然史博物館誘致の現状報告

国立沖縄自然史博物館誘致活動は沖縄県主体で進んでいます。国立沖縄自然史博物館誘致の「県議会国立自然史博物館設置促進議員連盟」が10月5日に発足しました。これまでの地道な取り組みが身を結びつつあります。2032年度の「国立沖縄自然史博物館」開館めざし、様々な誘致活動が県内外で行われていますが、会員の皆様におかれましてもイベントに是非参加していただけますようお願いいたします。

令和5年度国立自然史博物館誘致シンポジウム

1. 日本初の国立自然史博物館を沖縄に！「世界の宝・やんばるで語り合おう」(終了)
 - ① 会場: 名護市民会館大ホール
 - ② 日時: 2023年10月14日(土) 13:30~16:00
 - ③ 内容: 基調講演、パネルディスカッション
2. 日本初の国立自然史博物館を沖縄に！(仮題)
 - ① 会場: 笹川平和財団 講堂
 - ② 日時: 2月初旬
 - ③ 内容: 基調講演、パネルディスカッション



特別講演会

1. 日本発の国立自然史博物館を沖縄に！「進化から自然史を語る 2023」(台風のため延期)
 - ① 会場: 沖縄県立博物館・美術館 3F 講堂
 - ② 日時: 2023年8月5日(土) 13:00~15:30
 - ③ 内容: スペシャルコンサート、講演

令和5年度国立自然史博物館誘致企画展

1. 本島北部展(常設展)(開催中)
 - ① 会場: 沖縄美ら海水族館イベントホール(2023年6月20日~2024年3月予定)
 - ② 内容: パネル展示、オブジェ、動画
2. 本島南部展(終了)
 - ① 会場: 八重瀬町役場 1F 町民文化ホール(2023年8月23日~2023年9月15日)
 - ② 内容: パネル展示、オブジェ
3. 本島中部展(終了)
 - ① 会場: うるま市 海の文化資料館 2F ロビー(2023年11月1日~2023年11月30日)
 - ② 内容: パネル展示、オブジェ、「湊 和雄写真展」
4. 八重山展(一部終了)
 - ① 会場: 石垣市健康福祉センター(2023年11月12日)、石垣市役所 1F ロビー(2023年12月18日~2023年12月28日)
 - ② 内容: パネル展示など
5. 久米島展
 - ① 会場: 久米島博物館特別展示室(2024年1月26日~2024年2月18日)
 - ② 内容: パネル展示、「湊 和雄写真展」、動画
6. 宮古展(終了)
 - ① 会場: 宮古島市役所 1F ロビー(2023年12月2日~2023年12月3日)
 - ② 内容: パネル展示



南部展(八重瀬町)

沖縄生物学会第 60 回大会・総会報告

沖縄生物学会第 60 回大会が、2023 年 5 月 20 日（土）に琉球大学西原キャンパスで開催されました。大会実行委員長は琉球大学理学部生物系の竹村明洋幹事が務めました。過去 2 回の大会はオンライン形式、その前の 57 回大会は中止であったため、今回は 4 年ぶりの対面形式での開催となりました。演題は口頭発表が 14 題、ポスター発表が 17 題で、そのうちポスター 2 題は高校生による発表でした。久しぶりに直接顔を合わせ、各発表に対して多くの質問や議論が交わされたほか、休憩スペースでもお互いの近況を確かめたり、調査・研究に関する最近の情報を交換する姿がありました。通常の発表のほか、同日 13:00 からは総会、16:30 からは公開シンポジウム「沖縄への自然史博物館設立活動の過去、現在、未来」がありました。このうち公開シンポジウムでは、沖縄生物学会前会長の当山昌直氏と国立自然史博物館設立準備委員会代表理事の岸本健雄氏により、それぞれ本学会あるいは沖縄における自然史博物館設立に向けた要望や取り組み、設立準備委員会による構想や取り組みについての講演、琉球大学理学部生物系の小林峻氏による、研究を実践する視点から自然史博物館に期待されることに関する講演があり、それらを受けて質問や意見交換がなされました。その後、琉球大学の中央生協にて、これも 4 年ぶりとなる懇親会が開かれ、そこでも参加者の間で多くの議論が飛び交いました。

同日、大会会場で 13:00 から行われた総会では、伊澤雅子会長による挨拶のあと、議長団として、国立科学博物館の國府方吾郎氏と琉球大学教育学部の富永篤氏が選出され、議事が進行されました。報告事項として、戸田守代表幹事から 2022 年度事業について、従来通り 2 通の通信の発行と、同日の第 60 回大会の開催が報告されました。次に、藤田喜久編集幹事から、沖縄生物学会誌 60 号、61 号の発刊報告がありました。これら 2 号の発刊は、以前からの遅れを取り戻すことによるものであり、年度事業としては従来通りのものとの説明がありました。その後、池原貞雄記念賞選考委員長の佐々木健志氏に代わって伊澤会長より、第 14 回池原貞雄記念賞について、被推薦者がおらず授賞者なしとしたことが報告されました。続いて再び伊澤会長から、本学会の元会長である香村真徳先生が 2023 年 4 月 9 日に永眠されたとの報告があり、次号の会誌に載せる追悼文を募っていることが伝えられました。また、竹村明洋自然史博物館設立要請委員長より、国立自然史博物館設立への最近の動きについて説明があり、特に沖縄県による復帰 50 周年記念事業として第 9 回、第 10 回国立自然史博物館誘致シンポジウムや、本島北部や離島でのミニシンポジウム、それらと関連した常設展や巡回企画展が予定されているなど、沖縄県内で本件への関心を盛り上げていくために、動きが活発化していることが紹介されました。

総会での審議事項ではまず、本学会会則の改正についての提案がありました。これは、前回の第 59 回総会で会員から指摘があった、年会費滞納者の扱いなどをめぐる箇所の問題を修正しようとするものであり、総会に先立つ評議員会でも議論されていたものでした。総会では、戸田守代表幹事から会則改正に関する評議員会案が提示され、質疑の末、提案内容が承認されました。次いで同じく戸田守代表幹事から 2023 年度事業計画の説明があり、次回の第 61 回大会を、日本動物学会九州支部会、九州沖縄植物学会、日本生態学会九州地区会と本学会との 4 学会合同大会とし、2024 年 5 月に琉球大学で開催することが提案され、承認されました（1 ページに関連記事）。また、会誌および 2 度の通信の発行についても提案があり、いずれも承認されました。そのあと、傳田哲郎会計幹事から 2022 年度決算報告、菊川章監査員から同監査報告があり、それらが承認されたあと、再び傳田哲郎会計幹事から 2023 年度予算案が提示され、承認されました。予算案承認の過程では、一般会計の繰越金および出版事業会計について、今後有効な用途を検討していくためのワーキンググループを設置して議論を進めていくことが決定されました。最後に当山氏から閉会の挨拶があり、総会を終了しました。

第 15 回 沖縄生物学会池原貞雄記念賞候補者の募集

通信 112 号にて、第 15 回 沖縄生物学会池原貞雄記念賞の候補者を募集しましたが、現在まで応募がありません。本賞は、沖縄の生物の研究・教育・環境保護の各分野で活躍している会員または団体、および将来の成果が期待される若手会員に対して贈られるもので、下記の三部門が設けられています。研究者だけでなく、県内で広く教育活動や環境保護活動などを行っている個人や団体なども表彰対象となっています。会員の皆様からの積極的な他薦または自薦をお願いします。

<各部門の概要>

表彰の対象は、次の各部門に該当する個人または団体とし、原則として、個人の場合は学会会員(授賞式の時点で会員歴が1年以上)であること、団体の場合は会員3名以上が推薦する団体であることとする。

(1) 研究奨励部門

沖縄の自然もしくはその保護に関し顕著な貢献が期待される研究を行った個人（沖縄の生物に関する論文、講演などの実績がある・若手研究者を優先とする）。

(2) 教育功労部門

長年にわたり沖縄の自然もしくはその保護に関する教育実践、普及等に従事し、顕著な功績のあった個人または団体（沖縄の生物・環境に関する教育・普及啓発活動に実績がある）。

(3) 環境保護部門

長年にわたり沖縄の自然環境保護に関する活動を継続し、顕著な功績のあった個人または団体（沖縄の自然環境の保全に関する書籍、事業、イベントなどの活動実績がある）。

<池原貞雄記念賞歴代受賞者>

第 13 回 (2022 年)

- ★ 研究奨励部門 水谷晃 (Island Ecosystem Research)
「人の暮らしと生物の応答: 海鳥、カンムリワシ、海草とアオウミガメを例に」

第 11 回 (2020 年)

- ★ 教育功労部門: 安座間安史
「沖縄の自然、環境教育に対する長年の貢献」
- ★ 環境保護部門: 公益財団法人 沖縄こどもの国
「沖縄の在来生物保護を目指した飼育下研究と普及啓発」

第 9 回 (2018 年)

- ★ 環境保護部門 NPO 法人どうぶつたちの病院沖縄
「沖縄の希少動物と生態系保全を目指した獣医学的活動」

第 6 回 (2015 年)

- ★ 研究奨励部門 中西 希 (琉球大学理学部)
「イリオモテヤマネコの長期生態研究」
- ★ 教育功労部門 沖縄生物教育研究会
「会員相互の研鑽、理科教育の発展、書籍の発刊等の長期活動」

第 4 回 (2013 年)

- ★ 中村 剛 (台湾中央研究院生物多様性センター)
「琉球、台湾、フィリピンの植物地理」

第 3 回 (2012 年)

- ★ 藤田喜久 (琉大・大学教育センター/NPO 法人海の自然史研究所)
「沖縄での生物多様性研究と研究成果の地域への還元」

- ★ 小倉 剛 (琉球大学農学部)
「沖縄島におけるマングースの効果的防除対策に関する基礎研究」

第 2 回 (2011 年)

- ★ 小高信彦 (森林総研・九州支所)
「ノグチゲラと暮らせる森づくりに向けて」

第 1 回 (2010 年)

- ★ 佐々木健志 (琉球大学資料館)
「沖縄の絶滅に瀕した昆虫類の現状と同じく絶滅に瀕した蕨算について」



第15回 沖縄生物学会池原貞雄記念賞候補者の募集（続き）

第15回沖縄生物学会池原貞雄記念賞の候補者を募集します。規約にあるとおり、本賞は沖縄の生物の研究・教育・環境保護の各分野で活躍している会員または団体、および将来の成果が期待される若手会員に対して贈られるものです。会員の皆様からの積極的な他薦または自薦をお願いします。参考までに、池原貞雄記念賞表彰規約は学会HPを確認ください。受賞者の決定は選考委員会で行われ、沖縄生物学会大会開催時に授賞式を行います。

池原貞雄記念賞候補者推薦要領

1 推薦方法

別紙様式の表彰候補者推薦書（様式1）、推薦理由書（様式2）、履歴書（様式3、個人推薦の場合のみ）、団体の概要（様式4、団体推薦の場合のみ）各2部を添えて、沖縄生物学会池原貞雄記念賞事務局あて郵送にて提出する。もしくは、下記のメールアドレスに各様式を添付ファイルとして送信する（件名には必ず「池原貞雄記念賞推薦」と記入する）。

2 推薦人員

(1)各会員が推薦できる人数は、一部門の1名または1団体とする。

3 候補者の例示

- (1) 表彰規約3の2)の(1)は若手研究者を優先とする。
- (2) 表彰規約3の2)の(1)でいう表彰の対象者とは、例えば以下に該当するものをいう。
 - ア) 沖縄の生物に関する論文、講演などの実績があるもの。
- (3) 表彰規約3の2)の(2)でいう長年とはおおむね10年以上とする。
- (4) 表彰規約3の2)の(2)でいう表彰の対象者とは、例えば以下に該当するものをいう。
 - ア) 沖縄の生物・環境に関する教育・普及啓発活動に実績があるもの。
- (5) 表彰規約3の2)の(3)でいう表彰の対象者とは、例えば以下に該当するものをいう。
 - ア) 沖縄の自然環境の保全に関する活動実績(書籍、事業、イベントなど)があるもの。

4 候補の対象としない者

(1) 過去に当記念賞を受賞した者。

5 応募方法

- (1) 沖縄生物学会通信および学会ウェブサイトにて公募する。様式はウェブサイトからダウンロードできる。
- (2) 表彰規約3の2)の(1)でいう研究部門については、代表的な論文5編以内（コピー可）を添付すること。
- (3) **応募締切は2024年1月末日（当日消印有効）**とする。
- (4) 応募書類の送付先
〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1 琉球大学理学部海洋自然科学科内
沖縄生物学会池原貞雄記念賞事務局 宛、E-mail: okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp

6 留意事項

受賞者には自らの研究または活動の概要を受賞講演として沖縄生物学会大会で紹介していただきます。

問い合わせ：

本件につきましては、学会事務局へメール（okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp）にてお願いします。

令和5年度 沖縄生物学会 第1回評議員会報告

沖縄生物学会評議員会が2023年11月16日(木)の18:45から開催されました。遠方の評議員の利便性を考慮し、琉球大学理学部528室を会場としつつ、メンバーの一部がオンラインで参加するハイブリッド方式の評議員会となり、参加者15名でした(幹事含む)。

【審議事項】

1. 沖縄生物学会第61回大会の開催について

2024年度の年次大会である第61回大会の運営体制について議論がなされました。第61回大会は4学会合同大会であること、開催地と日程についてはすでにその前の総会で決定されていることの確認のあと、実行委員の人選や参加費、小中高校生枠の有無、シンポジウムや懇親会のあり方について議論がなされました。それらの議論では、他の3学会から出された原案や学会としての意見聴取に応えるべく話し合いがなされ、諸条件が通常の大会と大きく逸脱しないよう工夫すべきとの方針に加え、運営のなかでの本会の役割について意見をまとめました(第61回大会については、本通信1ページをご覧ください)。

2. 第14回池原貞雄記念賞の募集について

第15回池原貞雄記念賞の募集について、通信と学会ホームページで情報発信し、2024年1月末日を締め切りとするという提案がなされ、承認されました。昨年の第14回池原貞雄記念賞が被推薦者なしで終わったことを受け、評議員やその周囲で積極的に推薦を働きかけ、また委員自身も推薦者として積極的に検討していくべきことが確認されました。関連し、今回の募集については通信(本通信)の該当ページを拡大して改めて内容を紹介し、募集を呼びかけていくことが決まりました(関連記事:4-5ページ)。

3. 通信113号(本通信)の内容について

通信113号の内容について審議し、その項目立てと主な内容が承認されました。第61回大会の開催情報が重要だとしながらも、4学会合同大会であるため例年のように本学会だけで大会案内を作成することが難しいため、通信には概要だけを記し、詳細な情報を含む大会案内は別の通知と学会ホームページによって会員諸氏に知らせることとなりました。

4. 予算(繰越金)/出版事業会計を検討するワーキンググループについて

前回の総会で議論のあった一般会計繰越金と出版事業会計の有効な用途を検討するワーキンググループの設置について、伊澤雅子、傳田哲郎、戸田守、山川(矢敷)彩子の4名とすることが提案され、決定されました。この人選は、本件についてある程度経緯が分かっている会員がメンバーとなることが望ましいとの理由によりますが、必要に応じてメンバーを追加するなど、流動的に進めていくべきとの意見が出されました。

【報告事項】

1. 国立自然史博物館設立への動き(進捗報告)

竹村自然史博設立要請委員長より、国立自然史博物館設立に向けて沖縄県が積極的に動き、2032年の開館を目標にしていること、関連する県主催のシンポジウムが10月に名護、11月に石垣市で開催されたこと、東京で国会議員を対象としたシンポジウムを開催予定であること、議員連盟が発足し、誘致活動が行われていることなどが報告されました。

2. 役員について

会長や評議員を含む現役員の任期が2024年5月の総会までであり、特に2期目が満了となる役員に関しては改選の準備を始める必要があることが確認されました。

沖縄生物学会 役員一覧表

沖縄生物学会の会長、副会長、監査員および評議員は下記のとおりです(2022年12月時点)。任期は2年間で、2024年5月の総会までです。

会長 伊澤 雅子(北九州市立自然史・歴史博物館)
副会長 佐々木 健志(琉球大学) 豊島 正憲(沖縄生物教育研究会)

監査員 菊川 章(沖縄県立博物館・美術館) 比嘉 俊(琉球大学)
今井 秀行(琉球大学)

評議員

大学関係 坂下 光洋(名桜大学) 照屋 建太(沖縄キリスト教学院大学)

研究機関 米倉 浩司(沖縄美ら島財団) 糸 正幸((株)イーエーシー)
宮本 真琴((一財)沖縄県環境科学センター)

行政機関 新城 憲一(沖縄県教育庁文化財課)

高校関係 大城 直輝(豊見城高校) 島袋 陽(辺土名高校)
知念 美香(那覇高校)

中学校関係 平良 正哉(大里北小学校)

その他 当山 昌直(沖縄大学地域研究所)

池原貞雄記念賞選考委員会委員長 佐々木 健志(琉球大学)

自然史博物館設立要請委員会委員長 竹村 明洋(琉球大学)

庶務幹事 戸田 守(代表幹事:琉球大学) 中村 崇(琉球大学)
竹村 明洋(琉球大学) 山川(矢敷) 彩子(沖縄国際大学)
江藤 毅(琉球大学)

会計幹事 傳田 哲郎(琉球大学) 小林 峻(琉球大学)

編集幹事 藤田 喜久(沖縄県立芸術大学) 城ヶ原 貴通(沖縄大学)

編集委員 佐々木 健志(琉球大学) 太田 英利(兵庫県立大学)

前田 健(沖縄科学技術大学院大学) 傳田 哲郎(琉球大学)

会員の方々からも沖縄生物学会への思い、ご意見、活動、紹介したい内容などがございましたら、事務局にお知らせいただくか、学会のホームページにお寄せ下さい。電子メールは、okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp です。

沖縄県生物学会賛助会員

本学会にご協力いただいている賛助会員は下記の通りです。

株式会社 猪原商会 沖縄営業所 所長 小林宏行
〒900-0033 那覇市久米1丁目7番10号 (098) 868-6373

株式会社 イーエーシー 代表取締役 大石正明
〒901-2127 浦添市屋富祖3丁目34番17号 (098) 942-0085

沖縄環境調査株式会社 代表取締役 中村栄秀
〒900-0003 沖縄県那覇市安謝2丁目6番19号 (098) 861-7373

原稿募集のお知らせ

沖縄生物学会誌では、随時原稿を募集しています。投稿を希望される方は、投稿規定に沿って原稿を準備いただき(原則として電子ファイルでの投稿のみ受け付けます)、投稿専用アドレス(journal@okibio.jp)までお送りください。

本年度(2023年)から、発刊に向けた諸作業(受理原稿の編集・校正・印刷業者との調整など)を考慮し、12月末までに受理された原稿について、翌年3月に発行される号に掲載することと致しましたのでご注意ください。

沖縄生物学会誌は、毎年1号、毎年3月末に発行される予定となっています。投稿された論文原稿の審査(査読)は、通常2ヶ月~3ヶ月程度要します(査読結果次第では半年以上かかる場合もあります)。これらの発行スケジュールをご理解の上、十分な時間的余裕を持って、ご投稿をお願い致します。皆様の積極的な投稿をお待ちしております。

なお、投稿に関するお問い合わせについては、編集幹事の藤田喜久(journal@okibio.jp)までお寄せ下さい。

原稿送付先：journal@okibio.jp (沖縄生物学会誌 編集幹事)

沖縄生物学会

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地
琉球大学理学部海洋自然科学科生物系内
生物系事務室 TEL：(098) 895-8577
庶務幹事 中村 崇 (098) 895-8897
FAX：(098)895-8576, okibio@w3.u-ryukyu.ac.jp
振替口座(郵便)：02030-8-30433 沖縄生物学会